

カルメル

霊性センターニュース



2025 年 1 0 月

4 2 3 号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	2 2
東京	2 3
京都	2 5
通信深読お申込みのご案内	2 7
諸所の企画案内	2 8
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	3 2

心の泉



宇治カルメル会修道院(十字架の道行き)



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第十一章 敬虔な霊魂には、キリストのおんからだと聖書が必要である

4 神のみことばの糧

私は、特にこの世で二つの必要なものがあることを痛感します。それがなければ、この悲惨な世を私は忍びきれないでしょう。この肉体という牢獄にいる私は、糧と光の二つを求めています。そこであなたは、弱い私の体と霊魂の糧として、聖なるおんからだを与え、私の「ゆく道を照らす光として、みことば」(詩編 119・105)を与えてくださいました。この二つがなければ、私はよく生きることができません。神のみことばは私の魂の光であり、秘跡は生命のパンだからです。

以上の二人はまた、聖なる教会の宝庫にある「二つの食卓」(エゼキエル 40・40)と言えます。一つは祭壇の食卓であり、聖なるパンであるキリストのおんからだをのせてあります。もう一つは、神の道の食卓であって、聖なる教えをのせ、正しい信仰を教え、神殿の幕の向こうにある「至聖所まで」(ヘブライ 6・19、9・3)確実に私たちを導いてくれます。

5 皆が招かれています

あなたのしもべである預言者、使徒、教会博士たちによって、私たちのために整えてくださった教えの食卓を思い、永遠の光のなかの光である主イエスに感謝いたします。

創造主であり、すべての人の救い主であるあなたに感謝いたします。あなたは全世界に愛をあらわすために聖なる晩餐を用意し、象徴にすぎない子羊ではなく、ご自分のもっとも聖なるおんからだとおん血を糧として与えてくださいました。あなたは聖なる宴ですべての信者を喜ばせ、救いの杯で彼らを酔わせてくださいます。その杯にはあらゆる天国の歓喜があり、聖なる天使たちも私たちといっしょに集い、満たされます。天使たちはもちろん私たちより、さらに大いなる喜びにあふれているのです。

6 司祭職の偉大さ

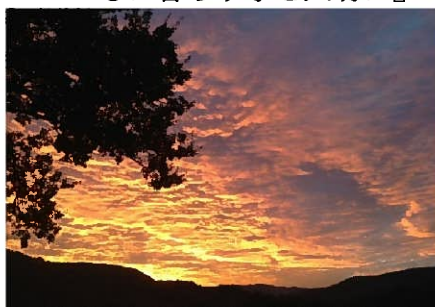
聖変化の言葉をもって気高い主を呼び、口で祝福し、手で受け、拝領し、他人にも分配する司祭たちの聖職はなんと偉大で崇めるべきものでしょう。その手は清く、その口は汚れなく、その体は神聖であり、日々の清^{せいじょう}浄のみなもとである主が入るその心が、汚れのないものでなければなりません。

キリストの聖体を受ける司祭の口からは、神聖であり、真実であり、有益な言葉以外は発してはなりません。キリストのおんからだをつねに眺める司祭の目は、単純で澄みきっていなければなりません。天地の創造主につねに触れる司祭の手は、いつも清らかに天に差しのべられていなければなりません。このために聖書には、特に司祭たちに向かって、「聖なる者であれ、主なる神、私が聖なるものだからである」と言われています。》

7 司祭の祈り

《全能の神よ、司祭職を受けた私たちが、清浄な身と澄みきった良心で、敬虔にふさわしい態度であなたに仕えることができるように、あなたの恵みによって私たちを助けてください。私たちが生きるべき姿で清い生活を送ることができないなら、せめて自分の犯した罪を泣き悲しむ恵みを与え、これから謙遜な意向と強い意志をもって、あなたに仕えられるようにしてください。》

『ともに暮らす家を大切に』



わたしの主よ、あなたはたたえられますように
存在するすべてのものの中に
映し出される神を見ることができるとき、
わたしたちの心は、すべての被造物のゆえに
主を賛美し、すべての被造物と一つになって
主を礼拝したい願望に動かされます。

(アッシジの聖フランシスコによる「太陽の賛歌」800年
を記念する行事が今年世界各地で行われるその式文より)

「わたしの主よ、あなたはたたえられますように」。この美しい賛歌のこばによって、
アッシジの聖フランシスコはわたしたちに思い起こさせます。

わたしたち皆がともに暮らす家は、
わたしたちの生を分かち合う姉妹のような存在であり、
わたしたちをその懷に抱こうと腕を広げる美しい母のような存在であるということ。
わたしの主よ、あなたはたたえられますように、わたしたちの姉妹である母なる大地の
ために。大地は、わたしたちを養い、治め、さまざまな実と色とりどりの草花を生み出し
ます。

～教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』はこの一節で始まる～

信頼の道を行く

あなたのために生まれた私は あなたのもの

私をどうなさる おつもりですか。

今日 あなたにこの愛を 歌うもののいやしさを かえりみてください

私をどうなさる おつもりですか。

私はあなたのもの あなたは私をつくられたから

あなたのもの 私をあがなわれたから、あなたのもの 私を忍ばれたから

あなたのもの 私を召されたから、あなたのもの 私を待たれたから

あなたのもの 私は亡びなかったから

私をどうなさる おつもりですか。

～聖テレサ 「神のみ手に」 より

太陽の光は自然界のすべてのもの、大木同様小さな花の一つ一つ
をそれしか存在していないかのように照らし、育み、「時」が来ると
花を咲かせます。同じように慈しみ深い神さまは、どんなに小さなも
のでも、かげがえのないものとして愛し、育んでくださいます。大切
なことは愛の太陽の光と熱をさんさんと浴びること。嵐の日も、大雨
の日も、暑い雲・暗い空のかなたに輝く太陽にただひたすら信頼・
希望すること。小さな虫食いの葉が太陽の光にかざされると、美しい色彩を帯びてきます。一人ひと
りの人生の秋にこのような紅葉に恵まれますように、日々テレーズとともに信頼の道を歩み続けたい、



伊従 信子 (いより のぶこ) ノートル・ダム・ド・ヴィ

■10月の祝日：聖テレーズ(1日)、アッシジの聖フランシスコ(4日)、聖テレサ(15日)

故フランシスコ教皇の言葉⑱

隣人たちに、心の扉を開きましょう。

すべての人が、その扉をとおって神の愛と出会えるように。

「では、わたしの隣人とはだれですか」（ルカ 10・29）と問う人がいるかもしれませんが。こう問う人は、「良きサマリア人」（同 30-37）のたとえを少なくとも百遍読み、腑に落ちるまで思いめぐらす必要があるでしょう。

隣人とは文字通りには「自分の隣の人」ことですが、その隣は、単なる「隣近所」ではなく、東西南北に広がり、全地球を覆うのです。また人とは、この場合の意味を超えてしまいましたが、現在生きている人ばかりでなく、過去のすべての人、未来に生まれてくるすべての人を含んでいるのです。要するに、隣人とは、自分以外のすべての人を意味しているのです。

そう考えるならば、隣人でない人など存在しないと言っていいのです。もし一部の人が隣人となったり、一部の人がならなかったりするとすれば、それは、私たちの「心の扉」の問題です。ある人には扉を開き、ある人には閉じるのです。閉じる理由は、国籍であったり、人種であったり、宗教であったり、職業であったり、社会的地位であったり、収入や財産であったり、性別であったり、…さまざまな区別が「心の扉」の開閉に関わることになります（扉を閉じる時、区別は差別になります）。 「すべての人が、その扉をとおって神の愛と出会える」ためには、私たちの

「心の扉」はいつも開かれていなくてはなりません。 (P. 九里)

P.S. 「フランシスコ教皇の言葉」(①～⑱)は、カルメル会のHPの「霊性センターニュース」に掲載されています。「霊性センターニュース」とクリックしてください。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（205）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

こぼれ話シリーズの導入(2)

今ここで、私はこの本を通して、十字架のヨハネに、その偉大さ、人間性、聖性の点から接舷しようと（近づこうと）しています。私たちは、十字架のヨハネという、「富と著作、諸徳と恩恵などを満載した豊かな船」の一つに乗り込もうとするという意味で、「接舷する」という言葉を使っています。航海の言葉で彼自身も、地上の富へと変わる天の富や、天の富へと変容する地上の富をたくさん持ち、与えられた人々を描きながら、自分の考えを述べています。

聖人を人間へ、人間を聖人へと導くことは、十字架のヨハネへの接舷を企てるために考慮に入れるべき鍵の一つです。他の言葉で言えば、天のものを地上のものへ、地上のものを天のものへと導くことです。

どんな聖人にも適応できるこの判断基準は、十字架のヨハネを取り扱ううえで、ことのほか重要性を持っています。彼を私は、白い伝説と黒い伝説の両方の犠牲者とみなしています。白い伝説は、彼をととても、とても、とても称賛するゆえに、彼を非人間化し、少なくとも、彼に具体的な人間性を与えません。黒い伝説は、それによって「グラシアンが”生（厳しいの意）聖人、消化しにくい（付き合いにくいの意）聖人”と呼んだ半分傷つき、半分気難しい」十字架のヨハネを称賛します。

聖人の伝記作者であり、編集者である聖テレジアのシルベリオ神父は、1936年、十字架のヨハネに対して一般的に抱かれている考えを再構築しました。
(続く)

P. 九里 訳

年間 第27主日 (C)

(ルカ 17 : 5 - 10)

使徒たちは、「わたしたちの信仰を増してください、」と言った

この27主日のルカの福音では、2つの重要なことを反省するようにわたしたちを招いています。最初は、最も大切な神学的な信仰です。信仰は、キリスト者の生活の基礎です。これはこの世界で最も偉大な力で、私たちの人生で最も大切な持ち物です。第二は、神の命令に対して信仰深くあることです。神は神であり、私たちは神の創造物ですから、私たちの仕事は、神を批判することではなく、神の命令と計画の全てをただ実行するだけです。

人生は、なぞです。治らない病気、親しい人の突然の死、人生の大問題、事故。これらは、私たち の限界をしらせ、人生の神秘に目覚めさせます。私たちは何故次々と悪魔に誘拐されるのでしょうか？ 正しく、罪のない人が何故苦しまなければならないのでしょうか？ このような問題は、何世紀にわたっての問いです。

私たちは、神のみ言葉と、悪魔を永遠に滅ぼした十字架上のイエスの苦しみのあがないの業を本当に信じていますか？ もしイエスが苦しまなければならないなら、その弟子たちも同じことをしなければならないし、その意味深さを見つけなければならないでしょう。神は何が善で何が悪かをご存じです。神の霊は私たちに罪と悪に打ちかつ力を与えてくださいます。私たちに望まれることは、自分の義務を神のみ旨として、「私たちは役に立たない召使です。義務以外のことはいたしません。」ということを心にとめて、できるかぎりのことをするだけです。

そうです。信仰は光です。理解のとびらを開き、確信を与え、人生の意味を示します。生きている信仰がなければ希望と慈善の人生は不可能です。生きている信仰は日々の生活に欠くことのできないものです。信仰は、勇気と価値観を生み出します。私たちの努力を意味あるものにします。信仰は万能です。私たちは、福音の中で度々福音の中で「イエスはそこでは奇跡をおこなうことができなかった。信仰がなかったからです。」という言葉を読みます。私たちの祈りがききいれられないとすれば、それは私たちの信仰が弱いからです。私たちは、まだ驚異的な働きをされている主を完全には信じ、信頼していません。ですから、使徒たちとともに、「主よ、私たちの信仰を増してください」と言いましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第28主日

(ルカ17：11-19)

今日の福音は、イエスがエルサレムへ上る途中の出来事、サマリアとガリラヤの間のある村での出会いと癒しが語られます。村に入ると重い皮膚病を患っている十人の人がイエスを出迎えました。イエスがこの村をお通りになるということを知ったのでしょう。そしてこの機会に憐れみを願おうとする姿があり、何としてもこの機会を逃してはいけないという切実な思いが、声を張り上げて言っている、願っていることからわかります。

遠くの方に立ち止まったまま・・・というのは、律法で定められた病に罹った人は、共同体から隔離された生活をする必要があり、病気を感染させない一広げないために、健常者に近づくことは許されていませんでした。イエスが彼らに祭司に見せるようにと言われたのは、清められ癒された人は、祭司に状況を見せて祭司が証することによって共同体に戻るができる律法の規定に沿ったもので、病気の人を癒されて、共同体に復帰できる様な配慮・ご指示だったのでしょう。

さてイエスの指示に従って祭司たちのところに行った人々は、その途中で癒されたと、述べられています。その中の一人は、癒されたのを知って大声で神を賛美しながら戻り、イエスの足もとにひれ伏して感謝します。どれほどの大きな嬉しさで心が一杯になって、ひれ伏して心から感謝したことでしょうか。

自分が清くされた、癒された出来事の先に、神が働いてくださり、憐れんで下さった。そのことを見、知り、感謝するため戻ってきたのでしょう。そして神との関わりを変え、生き方を変え、神との交わりのうちに生きるようになっていったのではと思います。

私たちも、日常生活の中で起きた出来事を丁寧に眺めていくとき、そこに神の御手、そして神の御指が見えることがきっとあるでしょう。その時、このサマリア人のように喜びのうちに神を賛美し、果たしてひれ伏して感謝することができるとでしょうか。

イエスは、そのサマリア人に言われました。「あなたの信仰があなたを救った。」…と。私たちはどの様な信仰を持っているでしょう。このサマリア人のように私たちは日々の生活の中で、心から神に祈り、願っているのでしょうか。神と出会っているのでしょうか。私たちが生活の中で神と出会い、信仰を深めながら、歩んでゆくことができますように。

神の恵みと祝福が豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第29主日 (C)

(ルカ 18 : 1－8)

本日の福音書は、しつようなやもめのたとえ話です。この話は「祈りの福音書」として知られるルカによる福音書にのみ登場します。この福音書は、イエスが定期的に、宣教活動における重要な局面を前に祈る姿を描いています。そして本日、ルカはこの短いたとえを通して、常に祈り続け、絶対に祈ることをあきらめてはならないことを教えています。

多くの現代人は、祈る意義や必要性を見失っています。祈る代わりに仕事をする人もいれば、「時間を無駄にして祈るよりも、隣人に奉仕すべきだ」と言う人もいます。祈ることは必要でしょうか？答えは「はい」です！なぜならイエスご自身が祈られたからです。自分のために祈る必要は全くなかったにもかかわらずイエスは祈り、弟子たちに「主の祈り」を教えられました。祈りとは、私たちの心を神に向け、神との愛の関係を保ち続けることです。祈りによって私たちは神と交わり、信仰が強いほど、祈りは深く誠実なものとなります。祈りと信仰は、キリスト者としての日常生活で密接に結びついています。他者のためや共同体の中で祈る時、祈りはもっと深い意味を持ちます。真の祈りとは、神の心に届くものでなければなりません。それは口先だけではなく、心と心との間の対話なのです。

しつようなやもめのたとえ話は、絶えず祈る大事さを教えています。不正な裁判官に正義を求めるやもめの根気強さは、彼を徐々に打ち負かしました。イエスはこのたとえを用いて、愛に満ちた神がこの不正な裁判官とは異なることを示されました。神は困っている子の祈りに応えてくださいます。神が祈りに応えてくれないと時に思えたとしても、その瞬間に子たちにとって何が最善かをご存じです。信頼をもって神に近づき、叶えられなくても絶えず祈り続けましょう。祈りに満ちた生活はキリスト者全員のトレードマークであるべきです。しつように祈れば、「絶えず祈りなさい」というみ言葉が実現されるでしょう。

(Sr. Paulina)

年間 第30主日（C年）

（シラ35：15b-17、20-22a、ルカ18：9-14）

今日の福音は、「ファリサイ派の人と徴税人のたとえ話」の箇所です。
このたとえ話のファリサイ派の人は、律法に適った正しい行いを行えていることを誇りとし、律法を行えている自分は神の目に正しく、救いの状態にあると思っています。

律法に適った行いを行えるかどうかが救いの基準になっています。
それはつまり、救われるかどうかはその人次第ということであり、神次第ではないということです。

一方、たとえ話の徴税人は、自分が罪びとであり、愛を行えていないことを知っています。

救いが自分次第では救われない人です。

人は皆、幸せを求め、救いを求めていますから、自分次第では救われないこの徴税人は、自分ではない他者に救いを求めます。

しかし、救いはどこにあるのでしょうか。

同じ人間の他者には限界があり、救い主ではありません。

この徴税人は、救い主であり、愛である神に救いを求めて祈ります。

愛において完全ではない、罪びとであるという自覚が人を祈る者へと変え、神により頼む者へと変えていきます。

様々な苦しみを抱えながら、自他の救いのために、自分の正しさやわざにではなく、神により頼む者こそが、謙遜な人です。

そのような謙遜な人の模範が、旧約ではモーセであり（民12:3）、新約ではイエス・キリストです。

イエス・キリストは、自分は罪のない正しい者でありながらも、神に全てを委ねて十字架を引き受けました。

私たち一人一人も、何が救いのための十字架なのか、神の教育と導きに信頼しましょう。

（志村）

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2025年9月8日

ジュビリー：跣足カルメル修道会 青年の集い開催



7月31日、青年たちのジュビリーの一環として、ローマのテレジアヌム国際神学院で跣足カルメル修道会の徹夜の祈祷集会が開催されました。これには異なる国々から集まった400人以上の青年たちと跣足カルメル修道会の会員が参加しました。この集いは、夕方聖パンクラス大聖堂で捧げられた、総長ミゲル・マルケス神父の主司式による聖体祭儀で開幕しました。

続いて跣足カルメル修道会の夕べの集いが行われ、兄弟愛に満ちた夕食会、霊的黙想、そして様々な文化的・伝統的背景を持つ若者たちによる信仰の証しがありました。その中で最も印象的だったのは、ミゲル総長による証しで、彼は福音、弱さ、そして希望に彩られたご自身の体験を分かち合われました。

(訳・注：小宮山延子)



いのちの言葉 10月

私の助けは来る
天地を造られた主のもとから。¹

(詩編 121・2)

1

人は誰でも、人生の中で、もう無理！と感じてしまうことが何度かあるのではないのでしょうか。

詩編121編の作者も苦難の中にあって、自分が必要としている助けはどこから来るのだろう、と自問しています。

その答えは、彼が信頼する神への信仰宣言そのものです。主が民の一人ひとりを、そして民全体をどれほど見守ってくださっているかを、確信を持って語るさまは、それが作者自身の深い体験から生まれたものであることを物語っています。

私の助けは来る
天地を造られた主のもとから。

実際、この詩編はこの後、力強く愛に満ちた神、万物を創造し昼夜を問わず守っておられる神を告げ知らせています。主はあなたの「足がよろめかないようにし、まどろむことなく見守ってくださる」²のだと作者は強調し、読む人を説得したいという熱意が感じられます。

苦難に取り囲まれながらも、作者は自らの目を上げ³ 自分の手の届くところを超えて、すぎるものを探し求め、答えを見出しました。

その助けは、あらゆる被造物を創り出し、いのちを与えた方、どんなときも支え続け、決して見捨てない方から来る⁴ということを作者は体験したのです。

その体験は強いもので、昼夜を問わず民を見守っておられる神、「イスラエルを見守る方」⁵を固く信じ、そのことを他の人々に伝えずにはいられないほどなのです。

私の助けは来る
天地を造られた主のもとから。

キアラ・ルービックは書いています。確信が持てず、苦悩や不安の中にあるとき、「神は私たちがその愛を信じ、決心して信頼することを求めておられます。……こうした試練にあってこそ、私たちが神の愛を本当に信じていることを示すようにと、神は望んでおられます。それは、神が私たちの父であり、私たちのことを考えておられると信じることです。私たちのあらゆる心配ごとを神に委ね、背負ってもらうことで」⁶と。

では、神からの助けはどのようにして、私たち一人ひとりに届くのでしょうか。

聖書には、モーセ、エリヤ、エリシャ、エステルなど、民や特定の人に対する神の慈しみの道具となるよう召された男女の行動を通して、それが表された多くのエピソードが記されています。

私たちも「目を上げれば」、意識的であるかどうかはともかく、私たちに助けを与えてくれる人々の働きに気づくことができるでしょう。一人ひとりの心を造られたのは神ですから、私に届いた善の源である神に感謝し、さらに人々に証しすることができるでしょう。

ただ、自分の中に閉じこもってしまい、困難な時に自分の力だけでどうにかしようと考えているうちは、それに気づくのは難しいでしょう。

けれども心を開き、周りを見渡し「目を上げる」なら、神の子らに恵みを与える神の道具に私たち自身もなり得るのだと分かるでしょう。他者の必要に気づき、その人にとっての貴重な助け手となることができるのです。

私の助けは来る 天地を造られた主のもとから。

コスタリカのロジェの体験です。「私はある支援団体に所属し、活動の一つとして大人用おむつを配布支援しています。ある日、知り合いの司祭から連絡があり、支援を必要としている信者のために、おむつを取りに行く人を送ります、とのことでした。その人を待っていると、家の前を近所の人を通りかかりました。彼女の生活が大変苦しい状況にあるのを知っていたので、手持ちの卵 7 個と他の食料を渡しました。彼女は、自分や夫、子どもたちに食べるものが何もなかったため、びっくりしていました。私は、イエスが私たちの必要を気遣っておられ、『求めなさい。そうすれば、与えられる』（マタイ 7・7）と招いておられることを、彼女に伝えました。彼女は喜んで、神に感謝しながら家に戻りました。

司祭から派遣された人は午後にやってきました。私はコーヒーを淹(い)れて、トラック運転手だという彼と話しながら、何を運んでいるのか聞いてみました。すると彼は「卵だよ」と答え、卵を 32 個、私にプレゼントしてくれました。」

シルヴァーノ・マリーニと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先：フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ 日本聖書協会「新共同訳」

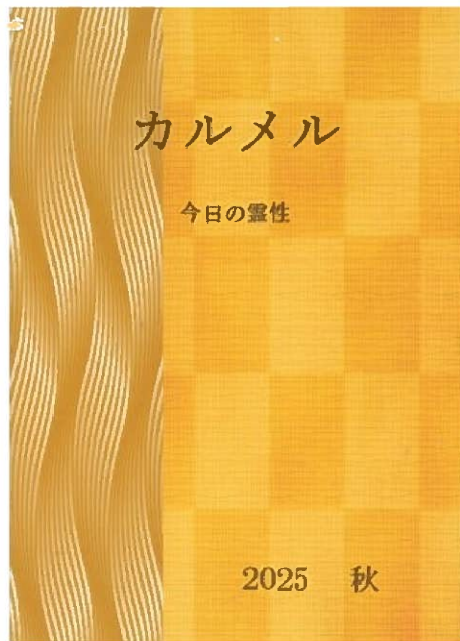
² 詩編 121・3

³ 同 1（参照）

⁴ 同 8（参照）

⁵ 同 4

⁶ キアラ・ルービック「Conversazioni」p. 279 ローマ、2019



2025年 秋号 No.398

《希望は欺かない—2025年通堂聖年の中で—(3)》
神の愛に希望を置く

—十字架の聖ヨハネの教え(1) 松田浩一

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(11) 鶴岡賀雄

この道はいつか来た道

—日々神との親しさに呼ばれて 伊従信子

教皇フランシスコ様

「我らが愛する教皇」 ポーリン・フェルナンデス

風に吹かれて再び(13)—塩、この不思議

原 造

霊的研究会講義録(29)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎



2025年 四旬節特集号

「聖年に祈る」

「希望の巡礼者となるために」

絶望の体験から

—二人のテレジアの霊的起点 中川 博道

イエスのみこころと全人類

—巡礼、シノドス、ニカリア公会議、新回勅
の連続性

サレジオ会 阿部 仲麻呂

レビ記、神の励ましの声を聞く

志村 武

信仰生活の再構築

和田 誠

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円(+送料 140円)を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特別号 計3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社定価 (1,500円＋税)

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53 番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」(「はじめに」より)。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師(カルメル会)推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 智恵（1）
 - 第2章 智恵（2）
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と（空）
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 愛のうちに（ある）
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

第2版
好評発売中!

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。([はじめに]より)



神と親しく生きる いのりの道

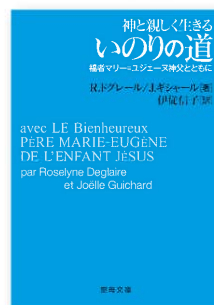
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



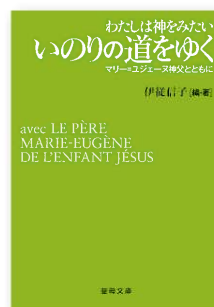
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

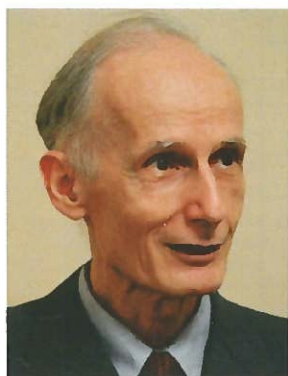
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

ISBN		
	第1巻	定価(本体+税)
I 超越体験 一宗教論	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教の精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
II 真理と神秘 一聖書の黙想	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院（黙想）**
(2025年5月～)

- ・ 聖書深読黙想会 (土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士

2025 年

5 月 24 日 (土) ～ 25 日 (日)

7 月 5 日 (土) ～ 6 日 (日)

9 月 6 日 (土) ～ 7 日 (日)

11 月 29 日 (土) ～ 30 日 (日)

2026 年

1 月 17 日 (土) ～ 18 日 (日)

3 月 7 日 (土) ～ 8 日 (日)

- ・ 奉獻生活者のための黙想会 (初日 18時～最終日朝食) カルメル会士

2025 年 8 月 16 日 (土) ～ 25 日 (月)

2025 年 12 月 26 日 (金) ～ 2026 年 1 月 4 日 (日)

★教会の祈り（時課の祈り）を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・ 介助やサポートなしで生活できる方。
- ・ 上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・ 個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・ 部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに
1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2025 年 10 月～2026 年 3 月)

【一般のための黙想】1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時）中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ（修道院）から開始

変更 ~~12/6—7~~→**12/20—21**
2026 年 1/31—2/1 3/7—8

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時）中川博道神父

11/29
2026 年 変更 ~~1/17~~→**2/7** 3/14

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時）中川博道神父

12/17
2026 年 1/21 3/11

【カルメルの霊性】（土日）午後5時から 中川博道神父

幼きテレーズ 9/27—28
アヴィラのテレジア 10/18—19
十字架のヨハネ 12/13—14

【祈りの学校】 総合編（木）午前10時から 松田浩一神父

10/9 変更 ~~11/13~~→**11/20** 12/11

【カトリック信仰生活の学び舎】

《カテキズムに基づく》（火）午前10時から 松田浩一神父

10/7 11/11 12/2

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）一般参加可

12月27日（土）夕食～1月5日（月）朝食 中川博道神父

2026 年
3月18日（水）夕食～27日（金）朝食 中川博道神父

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会も歓迎いたしますー

☆お申し込みはEメール、FAX、はがきで

お名前と連絡先をご記入の上、お申込み下さい。

お電話は午前10時～午後4時の間にお願い致します。

受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。

またタオル類も準備してありますが、各自持参してもかまいません。

浴室にボディソープ・シャンプー等はございますが

浴衣やブラシ・歯ブラシ等はありませんので、各自でお持ちください。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ「希望の巡礼者」

「主の恵みの年を告げ知らせるために」

(ルカ4章19節)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月 9日 「聖年」とは－新しい始まりの希望：聖年を迎える
- 2月13日 「希望はわたしたちを欺くことはありません」－教皇フランシスコの呼びかけ
- 3月13日 「希望の巡礼者」－イエス様とともに歩む
- 4月10日 「希望」と信仰－希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り
- 5月 8日 「希望」と愛－希望は神の愛に基づいています
- 6月12日 「希望」と愛の業－希望は愛の業によって現れる
- 7月10日 「希望」と祈り－希望は祈りによって養われる
- 8月 休み
- 9月11日 「希望」と平和－主は与えてくださる平和における希望
- 10月 9日 「希望」と福音宣教－世界に希望を届ける、教会の使命
- 11月13日 「希望」と神の国－神の国の到来を待ち望む
- 12月11日 「希望」と喜び－神の訪れはもたらす贈り物。

- ・ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦
1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186



サダナ瞑想 †東洋の瞑想とキリスト者の祈り†

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の 8 日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
名古屋 フォローアップ(1)	11/1(土) 9:30~17:00	Fr. 植栗	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 TEL: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 フォローアップ(2)	11/2(日) 9:30~17:00	同上	同上	
名古屋 フォローアップ(3)	11/3(月・祝) 9:30~17:00	同上	同上	
入門C	11/16(日) 9:30-17:00	同上	都内施設	来間(くるま) 裕美子※ TEL: 090-5325-2518 *ショートメールは避 けてください sadhana79878@ gmail.com
サダナ I	11/21(金)17:30 -24(月・祝) 16:00	同上	同上	
広島 リピーターの会	2025 年 1/10(土)9:00~ 12日(月・祝) 16:00 ※通いも可能です	同上	広島市内施設	同上
フォローアップ	1/18(日) 9:30~17:00	同上	シャルトル聖パウロ 会 九段修道院 (千代田区九段北)	同上

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- 入門Cへの参加＝入門Aまたは入門Bを終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加＝サダナIを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分)

次回の予定: 11 月 20 日(水) 13:30～15:30

2025 年度スケジュール

1 月 16 日、3 月 13 日、5 月 15 日、7 月 10 日、9 月 18 日、11 月 20 日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

